

つばめだより

2019年9月



厳しい暑さも和らぎ、少しずつ秋の気配を感じられるようになりました。子どもたちから海やプールに行った話や、お祭りや花火を見に行った話、虫取りをした話など夏の思い出を楽しくきかせてもらっています。

8月の活動紹介



・ビニールプール

夏ということで、ビニールプールにボールをたくさん入れて楽しみました。プールの中でボールの感触を楽しんだり、たくさんのボールから好きな色を選んで大人に渡したり、たくさん投げたりして遊びました。たくさんのボールの感触の中で意図的に力を抜いてリラックスできるという効果や、小さめのボールを掴んで好きな方向に投げるといった力の発散や、今後のボール投げへのつながりを意識して関わっています。ボールの色を選んで相手に手渡すなど、貸し借りの遊びにも繋がったりしています。

小さめのボールプールですが、暑いので室内で少し涼しい気分を味わうことができたらいいなと思います。



・ビーチボール

こちらも夏ということで、涼しげなビーチボール遊びを楽しみました。当たっても痛くなく、遠くには飛ばないので投げやすくキャッチしやすい利点があります。

普通のゴムボールよりも両手でキャッチしやすいので、投げてキャッチするやりとりが面白くて何度もチャレンジする姿が見られました。サッカーのようにキックをしてゴールに入れたり、手も足も使って部屋の中を走り回って楽しみました。



・滝

滝をイメージして手作りの滝ののれんをグループ開始時のサーキットで使用しています。何度もトンネルのようにくぐってみたり、反対側の人といないいないばあを試してみたり、ゆっくり移動してのれんが体に当たる感触を楽しんだりしています。

色が涼しげなので、まだまだ暑い中來所していただくお母様方のホッと一息つけるアイテムになればいいなと思っています。

• すみすみ研修を受講しました

7月3日に「支援の視点」という内容の研修を受講しました。講師は姫島こども園の園長の岩崎隆彦先生で、本人主体の支援とはどういうものかを学ぶことができました。

「支援」とは本人がより良く生きていける為のものであり、マニュアル的にするのではなく本人や家族の声をききながら一緒にやっていくものである。支援者の役割は単純な指導ではなく、本人の立場に立った理解と支援の方法を考えていくことである。という2点が印象に残っています。

今後もつばめでも本人主体の支援を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

8月の絵本

『くだものたごもの』



「キウイ うきうき うきわでおよく」
くだものたちがダジャレをいいながら
海水浴を楽しんでいるおはなし。
リズムのよい言葉あそびを子ども
たちはくだもの名前を言いながらも
集中してきき入っていました。
普段のスーパーではみかけない
くだものたちもいますよ☆



『わにわにのおでかけ』



ねむれなから、た夜、わにわにがお祭りにでかけます。金魚すくいや木風船、花火もみる。お家に帰り、たわにわには、ぐすりねむれそうです。
子どもたちは「おまっりー」「はなび」と言ったり、わにわにがとびらをあけたまま家をでていったことに心配する様子も見られました!!

『はひふへほーず』



はひふへほーず はじめるよーず
え!!? それってどんなホーズ!!?
「は」は両手両足を大きくひろげて
います。「ひ」は? 「ふ」は? ...
ききなれないホーズですが子どもたちは
絵を見ながらお母さんたちと一緒に
ホーズをしる姿もみられました!

『よついちにち』



あついあつい夏の日にはクワガタをさがしにでかける男の子。転んであべとどろだらけになりながらつかまえたクワガタ!!
男の子の達成感が伝わってくる絵本です。
子どもたちはページをめくるとびにでてくる虫の名前をいいながら次のページをめくるのをわくわくした様子で見ました。

